

合意形成学習への代替的アプローチの可能性

—National Issues Forumsの試み—

磯崎 育 男

千葉大学・教育学部

The Possibility of An Alternative Consensus-building Learning

ISOZAKI Ikuo

Faculty of Education, Chiba University, Japan

本論文は、前回の紀要論文で展開した、より現実主義的な合意形成学習の方向性を、アメリカにおけるNational Issues Forumsのモデルに見出そうとする試みである。

わが国の合意形成学習は、これまでディベートを基本として展開してきたとあってよいが、それでは、授業展開において対立から和解への相反した指示になってしまうとともに、政策選択肢の柔軟な発想が抑えられてしまう可能性が高い。また、問題をどう捉えるかという視点が政策案を形成する場合、重要であるが、ディベート形式ではそれが深められない難点がある。

本論文では、そのような問題を解決するためデリバレーションという概念に基づき、その代替的アプローチをNational Issues Forumsのプログラム、具体的には、人々が熟議し、議論する仕組みを多様なレベルで構成し、知識習得のみならず、態度形成につなげていこうとしているモデルを説明し、その効用等について議論している。

This article is a part of my continual efforts to seek more realistic approaches of the consensus-building learning in Japan, which has been based on debate-style discussion so far. It proposes a new approach on the basis of deliberation, suggested by National Issues Forums in U.S. As a result, adaptability of this model to Japanese classroom might be high.

キーワード：デリバレーション、熟慮、市民教育、民主教育、合意形成学習

1 はじめに

先進国では、一般に政治的無関心層、支持政党なし層や棄権の増加などに象徴される「脱政治化」の流れがみられる。確かに一方では、生活の隅々まで、政治・行政機能が浸透する「汎政治化」が進行しているのであるが、人々の意識面では、「脱政治化」もしくは「無政治化」がみられるのである。

また、現代的グローバリゼーションの動きは、社会を不安定化させており、ますます先の見えない世界を出現させている。インターネットなどの普及は、民主政治の前提となる情報の自由な流れを加速しているが、一方では行き過ぎが目立ち、ヴァーチャルなサイバー空間の拡大は、さまざまな問題を発生させる原因となっている。また、この情報革命を伴うグローバリゼーションは、市場主義と民主主義との親和性を高めると同時に、一部国家の漂流化も加速させており、社会的不確実性は一層拡大している。

このような状況に対し、世界に対する的確な認識を持ち、自立した意思決定ができる市民を育成していくことは焦眉の急であるが、それを担うべき民主教育もしくは市民教育は、先進国においてすら発展しているとはいえない。わが国において、その主たる担い手として期待さ

れる社会科は、暗記や社会的認識中心で、態度形成を含む主体的市民育成に連なっているとはいいたい面がある。もちろん社会科教育の中で合意形成学習などが謳われ、新たな動きを形成しているが、必ずしも十分ではないのが実情である。アメリカでも1980年代以降、教育改革において競争原理が強調され、市民教育にかける時間は減少する(Niemi and Smith, 2001)とともに、社会科は、日本と同じような認識を中心としたものにシフトしてきている。

本論は、わが国における民主教育の一層の振興のために、これまでの合意形成学習の問題点を把握するとともに、新たな概念に基づく代替的アプローチを検討し、アメリカにおける市民教育再興の一翼を担うNational Issues Forumsの動きを紹介しながら、わが国への適用可能性などを考察しようとするものである。

構成としては、最初に合意形成学習の問題を概観し、その問題解決のための概念装置を考察する。そして、それに基づく、授業実践もしくは社会実践としてのNational Issues Forumsの動向を分析し、最後にその効用や限界等を考えることとする。

2 合意形成学習とその問題点

民主政治は、「合意による政治」とも言われ、民主政治を十分機能させるためにも「合意」をいかに形成する

か、に関わる合意形成学習を実質化していく必要がある。筆者は、この合意形成学習の定義、意義、問題点について拙稿（磯崎，2004年）でまとめたので、ここでは詳述しないが、代替的アプローチを考案する上で考えなければならない問題点として、以下の4点があげられよう。

- (1) まず、ツールミン図式を活用することに伴う限界が存在するといわざるを得ない。これまでの合意形成学習の方法はディベートをベースとしており、合意形成学習を展開する場合、2項対立的図式が展開された後で、統合することになる。結局、授業実践において、生徒や学生に対して対立から統合への矛盾した指示が現れることになる。換言すれば、ディベートでは勝つためのコミュニケーションが展開され、その後で合意形成もしくは和解のためのコミュニケーションが強調されるのである。
- (2) 次に、2つの選択肢の戦いの中で、第三の道、第四の道などを模索することが難しくなる、あるいはそれらを含むマクロな視点からの統合の契機が忘れられてしまう可能性があることも問題を形成している。これでは実際の複雑な政策決定には耐えられないと同時に、多様な価値観形成も行えないことになる。
- (3) 政策の選択肢を出す際に、その前提として問題をどう捉えるか（フレーミング〈framing〉）という点が重要であるが、ディベートではそのような議論を展開する余地が狭く、議論が矮小化する危険がある。
- (4) 教室でのディベートは、理想的な発言状態を形成しているといえようが、教室だけの「特設舞台」のようになり、偏見や固定観念などが支配する実生活での応用に進まない問題がある⁽¹⁾。

これに関連し、松本氏は、「論争問題学習は、必ずしもディベートによる手法を用いなくても学習の深化は十分図ることができる」（松本，1995年，39頁）とし、その理由として

- 1) 論争問題にはさまざまな主張や見解がある。……討論方法はむしろ生徒の考えを拘束する恐れがある。
- 2) 論争問題学習では多くの資料や情報の分析を通して、まず自らの考えを作り、小集団や全体での話し合い活動や討議活動を経ながら自らの考えや意見を確かめたり、修正したり、深めたりすることに意義があり、「仮」の立場に立たせる必要はない。
- 3) 論争問題による学習では、一人ひとりがどういう判断に立って自らの考えや意見を深めていったかの思考を練る過程が重要で、集団としての意見の統一や成果を問うのではない。

としている（同，39～40頁）。まさに、正鵠を得ているといえる。

このような問題や批判に対応するには、これまでの合意形成学習にディベートと異なる考え方を取り入れていく必要がある。

3 新たなアプローチのための理論的基礎としてのデリバレーション

ここでは、ディベートに代わる概念としてデリバレーション（deliberation）を提示しよう。

一般に、デリバレーションは、「熟慮」や「審議」と訳されるが、両方あわせて「熟慮ある対話」（deliberative dialogue）というべきものである⁽²⁾。

デリバレーションは、ある事柄への判断につながる注意深い内省を基礎とするプロセスであり、他者の意見とのぶつかり合いによって深まる面と、自己の内的な省察によって深まる面の両面を有している。その内的省察は、自己内の対話であり、それは、自己の準拠枠組みや期待の観点から他者の発言を解釈し、自己自身の仮定や価値観、利害の観点から他者の言動を位置づける働きを持っている（Goodwin, 94-95）。ここでは、参加する人々が、進んで、説得され、自分の先入観をよりよい議論の中で変え、自分の選好に固執しないことが求められることになる（Dryzek, p. 2）。

また、このデリバレーションに関しては、チャールズ・W・アンダーソンの4つの理性が関わる。一つは、歴史的妥当性や満足水準（H・サイモン）と関連する信託理性（reasons of trusteeship）、第二は原理原則を中心とする批判理性（critical reason）、これは、現実に対して原理を対比することにより、デリバレーションを活性化させる機能を担う。第三に、新規開拓型理性（entrepreneurial reason）があげられる。これは、個々の局面における問題解決やその実現においてさまざまな障害を乗り越えて個別の目標を達成する道具的理性に関連する。第四に、改良型理性（meliorative reason）であり、これは漸進主義に近く、サイレント・マジョリティを意識しながら合意を考察し、それを求めてさまざまな工夫を行うことに、その本領がある。なお、それぞれはお互いに影響しあう関係にある（Anderson, chap. 10）⁽³⁾。

さらに、ディベートとの対比で、デリバレーションを考えると、いささか図式主義的な嫌いがあるが、以下のようになる。

ディベートの目標が相手を説得することや勝負に勝つことに力点が置かれるのに対し、デリバレーションのそれは、共有された行動の方向性を模索することである。また、ゲームのイメージは、ディベートが、ゼロ・サム的であるのたいし、デリバレーションは、プラス・サム的であるということができよう。他の項目を含めて表すと、表1になる。

4 公的審議モデルとしてのNational Issues Forums (NIF)

ここでは、デリバレーションを体現したNIFのさまざまなシステムおよび機能を体系的には扱う余裕がないので、そのエッセンスのみ概観する。

(1) NIFの概要

NIFは、デリバレーションを理論的基礎とする授業実践アプローチ⁽⁴⁾の一つであるが、決まった確固としたモデル、アプローチ、定式化を有しているわけではなく、毎年実践者たちによって改良され続けている。もともと非営利のケターリング財団（Kettering Foundation）と公共アジェンダ財団（Public Agenda Foundation）が作り上げたプログラムであり、1981年以降、さまざまな

表1 ディベートとデリバレーションの比較

ディベート		デリバレーション
目 標	勝敗（アウトカム志向）	共有された行動の方向性（模索）
ゲームのイメージ	ゼロ・サム	プラス・サム
ル ー ル	厳格	ゆるやか
基 本 原 理	論理性・最適性	現実性・満足性
選 択 肢	2項対立	多様性

問題に関するブックレットなどを発刊し、デリバレーションのための基礎資料を提供してきている。また、1987年には、NIF研究所（National Issues Forums Institute）が設立され、NIFを広める活動を行っている（O'Connell, p. 141）。

このNIFは、基本的にタウン・ミーティングの伝統に基礎を置く、学校を含むフォーラムを用い、主として争点ごとに3～4の選択肢を示しながら、審議・熟慮を経て可能ならば共通の行動了解を構築しようとする試みといえる⁽⁵⁾。

(2) 授業の位置づけ

NIFは、前述のように学校内で完結するプロジェクトではないが、NIFカリキュラムが、ハイ・スクールで展開されるとした場合、ナショナル・スタンダードとどう関連づけられるかを社会科に限定してみると、表2になる。

(3) 進め方の基本

ここでもハイ・スクールを念頭に置き、NIFの進め方を見る（NIFI, sec. 2）。

A. 準備段階

さまざまなワークシートを活用しながら、以下のように話を進める。

1) 論争問題の特定化

具体的に論争問題例を示しながら、論争問題とは何かを明らかにする。

2) アメリカの政治システムに関する説明

政治とは何か、そのプラス・イメージおよびマイナス・イメージを話し合わせる。また自分たちに関わる政治問題が決定される具体的プロセスを話し合う。さらに、政治的決定が、世論や公共政策とどう関係しているかを見ると同時に、民主的プロセスにおいて国民がどのような活動に従事するかを考えさせる。

3) デリバレーション

政治過程の中で意見や熟慮の重要性について具体例を考えさせながら教える。いかに多くの 이슈が提起されるにもかかわらず、ある 이슈が他のそれよりも重要であるかを認識させる。また、論争問題の重要性を認めることは、問題の解決法に合意しているのではないことも認識させる。さらに合意が困難であること、熟慮、トレード・オフ（メリット、デメリット）、共通のスタンスに関する好例について議論する。

4) フォーラム

フォーラムの役割とNIFについて説明する。

フォーラムに関し、ディベートとの差異を確認するとともに、モデレーターや参加者の役割を確認する。また、NIFのアプローチがどのような意義をもったものなのかを説明する。その中でも公的意見の形成、問題解決に必要な技術の獲得などが強調される。

B. フォーラムの実施

1) 論争問題の紹介

まずNIFの争点本（ブックレット）を紹介する。そこには、論争の背景、多数（通常3～4）の解決策、トレード・オフ、利害関係者などの資料や考えを発展させる質問事項などが示されている。これを授業で読んでも、家で宿題として学習させることもできる。どう対応するかは、この論争問題に割ける時間と関わる⁽⁶⁾。また、一般用に作られたビデオテープを流し、理解を促進することもできる。

2) 議論の開始

議論は後でその役割を述べるモデレーターが進行役を担うが、そこでの議論は、次のようなポイントを中心に展開される。

① イシュー

- ・この問題は、個人的にあなたに影響しますか。
- ・この論争問題の解決を難しくしている原因は何ですか。
- ・この意見を支持している人々がもっとも大切に思っていることは何ですか。
- ・この選択に関して心に訴えるのは何ですか。
- ・何を持ってこのアプローチの良否が決まりますか。

② コストもしくは結果

- ・この選択を実施する場合、どのような帰結が生じますか。
- ・何が帰結するか、あなたが考える具体例を示してください。
- ・誰もが異なった予想をしていますか。

③ 困難性

- ・選択肢間に緊張が起きる原因は何ですか。
- ・どういう点で、紛争が生じますか。
- ・この集団にとって未解決のものは何ですか。
- ・われわれはどの程度共有の目標や方向性をもてたでしょう。

④ 共通の場への到達：私からわれわれへ

- ・どのような方向性が最も良いでしょうか。
- ・どのようなトレード・オフをわれわれは進んで受け入れますか。
- ・どのようなトレード・オフは受け入れられませんか。
- ・われわれは、この問題を解決するために個々人もしくはコミュニティの一員として、進んで何を行いますか。

表2 ナショナル・カリキュラム・スタンダードとの関連
(社会科) (中等教育)

II. 時間, 連続性と変化

- f. 歴史的, 現代的展開を分析するため, そして公共政策問題にかかる行為を認識させ, 評価させるために歴史探求の概念, 理論や様式を適用する

IV. 個人の成長とアイデンティティ

- a. 個人個人の時間, 場所や社会・文化システムとの諸関係を集約する
- h. ある目標を達成するために, 個々人で, そして共同して集団, 組織内で作業する

V. 個人, 集団, 組織

- a. 人々, 出来事や歴史的・現代的状況における文化的要素に集団や組織が持つ影響を分析する
- d. 個人性の表現と集団や組織によって社会的調和を促進するために使われる努力との間にある対立の例を確認し, 分析する
- e. 現代のそして歴史的動きにおける特定の伝統や法に基本的な信念体系を描き, 分析する
- f. 継続性や変化を進める際に組織の持つ役割を評価する
- g. 集団や組織が, 現代的, 歴史的状況で個人の要求を満たし, 共通善を促進する程度を分析する

VI. 権力, 権威と共治

- a. 個々人の権利, 役割や地位を含む絶え間ない問題を一般的福祉との関係において分析する
- c. 人々の要求を満たし, 領土を管理し, 紛争を制御し, 秩序と安全を維持し, 正しい社会に関する競合する概念を調和させるために, 概念やそのメカニズムを分析, 説明する
- d. 国々や諸組織が, 統合の力と多様性の力との対立に対応する方法を比較し, 分析する
- f. 国々の対立や協力に寄与する状況, 行為, 動機について分析し, 評価する
- i. 諸政府が, 国内, 外交における, 述べられた理想や政策を達成している程度を評価する

VII. 生産, 分配と消費

- h. 歴史的また現代的な社会発展や社会問題を評価するときに経済的概念や理由付けを適用する

VIII. 科学, 技術と社会

- f. 温室効果ガスのような, 技術と社会が関わる公的な議論に影響を与えるための戦略や政策を作成し, 発展させる

IX. 地球規模の関係

- d. 健康, 安全, 資源分配, 経済発展や環境の質のような, 継続的で, 現代的かつ創発的なグローバル・イシューの原因, 結果や可能な解決策を分析する

X. 市民的理想と実践

- a. 個々人の尊厳, 自由, 正義, 平等や法の支配のような民主共和制の政府形態の重要な理想の起源を説明し, それらの継続的な影響力を解釈する
- b. 市民権や市民の責任に関する源泉や具体例を確認し, 分析し, 解釈し, 評価する
- c. 特定の公共問題についての情報を位置づけ, アクセスし, 分析し, 組織化し, 総合化し, 評価して, 適用する—さまざまな多元的視点から
- d. 民主共和制における市民の理想像と矛盾しない公的議論や参加形態を実践する
- e. 市民活動が公共政策に与える影響を分析し, 評価する
- f. 公職アクターおよび非公職アクターの観点から多様な公共政策や公共問題を分析する
- g. 公共政策の展開や意思決定に影響し, 形作る際の世論の有効性を評価する
- h. 公共政策や市民的行動が民主共和制の政治における述べられた理想を反映し, もしくは促進する程度を評価する
- j. 市民行動のための可能な選択肢の注意深い評価に基づく「共通善」を強化する諸活動に参加する

出典: NIFI, pp. 1. 13-1. 15

- ・われわれが, 発言したことで撤回したことについて他者に話しましたか。
- ⑤ デイバートではないデリバレーションとして
 - ・私は, あなたがこの立場を好んでいないことはわかりましたが, その立場に深く固執している人のことをどう思いますか。
 - ・われわれがここで (このフォーラムで) 忘れてしまっている意見はありませんか。
 - ・あなたが異なる環境におかれたら, あなたの選択はどう変わりますか。
- ⑥ 意見の検証 (チェック)

- ・あなたは, 集団が最も好まないアプローチの最も良いところを論証できますか。
- ・われわれは, 集団が最も好むアプローチの否定的インパクトを確認し得ますか。

C. 要約と自省

以上のデリバレーションを受け, 個人個人で要約作業を行うとともに, 共同してまとめる。

要約した後で, 今までの過程を振り返り, 数枚の評価票をまとめる⁽⁷⁾。

D. アフター・フォーラム

最後に, 参加者に対して次のステップにかかる質問が

行われる。

- ・われわれは、公職者にコンタクトする準備がありますか。彼らにフォーラムのことを伝える用意がありますか。
- ・いかにして公職者に会い、自分たちの考えていることを伝えますか。
- ・われわれの地域で、この問題について行動を起こすつもりはありますか。
- ・われわれは、これでフォーラムを終わりますが、われわれがやる準備ができているもの、またやれるものは何でしょうか。

またあわせて、地域の人々に会って自分たちの考えを伝達したり、自省的エッセイをまとめたり、新聞の『声』に投書したり、自分たちでブックレットを作ったり、ウェブ頁を開設したりすることも勧められる。

(4) モデレーター的作用

ディベートの司会はそのプロセスの中では、それほど重要な役割を果たすとはいえないが、デリバレーションに基づくフォーラムでは、モデレーターは相対的に重要な位置を占める。その役割としては、以下のようにまとめられる。

- ・モデレーターは、特定の論争問題に専門家として臨む必要はなく、いわば中立的な役割を果たすことが望まれる。ただ、ブックレットなどに十分目を通し、参加者の立場から質問を考え、会議のポイントについて考えておくとともに、過程全体を常に考慮することは必要である。
- ・フォーラムが重視するデリバレーションとは何かを常に心に留めておくことも重要である。デリバレーションを十分展開するため、そのための時間を十分とるようにする。したがって、時間の進行管理は特に重要である。
- ・論争問題に関して議論が停滞しないように注意する。すべてのオプションについて考えると同時に、適切な質問によって意見が多く出る状況を作っていく議論促進者の役割が期待される。

以上のような役割を果たすことによって、デリバレーションが有効に機能することになる。また、モデレーターは参加者から評価を受けることになり、そのことがモデレーターの研鑽へとつながっていく。

5 結びに代えて

(1) NIF実践の効用

NIFの実践はかなりの蓄積を見ているが、その効用は以下ようになる。

- ① 開放性があること、すなわちだれもが参加し、審議しうる
- ② 自分や他者の意見を再考する習慣がつく
- ③ 論争問題についての知識が増大する
- ④ 論争問題をより現実的に考えられるようになる(トレード・オフ、コストなど)
- ⑤ 政治的アクターとしての認識が増す
- ⑥ コミュニケーション能力が伸びる

⑦ 政治的・社会的争点により関心を持てるようになる

⑧ 自己利益をより広く考えるようになる

⑨ 争点について活動する志向性を増す

この効用を知識習得、技術習得、態度育成の観点からまとめると、次のようになる(Doble and Peng)。

1) 知識習得

- ・自分自身が複雑な問題を扱える能力を有していることを認識する
- ・複雑な問題は、トレード・オフが必ずあることを認識する
- ・選択肢について重み付けしたり、そのコストや結果を熟慮したりすることの重要性を認識する
- ・公的な審議が、他者の意見をよく聴くということの上に成立していることを知る
- ・各人の態度は、何が重要かという人々の信念に根ざしていることを知る

2) 技術習得

- ・他者の話を注意深く聞く
- ・問題を議論する方法を発展させる
- ・イシューとは何か、またイシューの捉え方に敏感になる
- ・複雑な問題にかかわり、理解し、対応する仕方を身につける
- ・決定のための熟慮を身につける
- ・議論に加わらなかった人々にも配慮するようになる
- ・共通の利益を確定できるようになる
- ・争点をどう扱うか、道理にかなった、思慮に富んだ判断にどう到達するか、身につく

3) 公的態度育成

- ・社会での有能感が持てる
- ・さまざまな意見を考える価値を見出す
- ・公的問題解決における大衆のかかわりの重要性を身につける
- ・共通の方向性をみなが見出していくことの大切さを身につける

前述のアンダーソンは、市民的能力を6段階、すなわち第一段階としての社会的制度の作動に関する正確な知識の習得、第二段階としてのイデオロギーを含む批判的分析、第三段階として問題解決のためにもっとも適切なアプローチを考える力を身につけること、第四段階として公共問題をさまざまな観点から解釈する力の習得、第五段階として、共同行為のための地盤を見出すためにさまざまな競合する選択肢の中から決定する力、最後の第六段階として冷静に自分の中にもある既成の優勢なモデルを批判する力を習得することに区分し、これらが重層的な形で存在すると主張した(Anderson, pp. 196-202)が、まさにNIFはこれらの能力を育成できる一つのモデルとなっているといえよう。

その他評価できるべき点としては、学校にとどまらないカリキュラムであるため、さまざまな場所で繰り返し実施しやすい点があげられる。地域住民と共同して議論を展開する場合でも、生徒や学生の代表を入れることは可能である。まさに、学校教育、社会教育、生涯教育で反復して対応できるモデルといえる。また、集団的意思

決定における最適解を目標にしつつも、集団構成メンバーの満足が得られる満足解を志向しており、現実的であるとともに、モデレーターの力量と関連するが、問題の捉え方の重要性を十分認識することが可能なモデルとなっているといえよう。

(2) 今後の課題

今後の課題をまとめ、本論を終えよう。

1) NIFのネットワークが有効に機能しているのかに関する検証

NIFは、さまざまな団体が、状況に合わせた取り組みをしているが、どのようなカリキュラムやプロセスが、生徒、学生、大人たちの発展段階に合わせて適当なものなのかを検証してみる必要がある。

2) わが国への適用可能性についての検討

アメリカにおいて一定の成果をあげているからといって、日本でそのまま適用できるとは限らない。わが国の学習指導要領の中で、どのように位置づけ展開するか等について、一定の工夫が必要とされよう。

3) デリバレーションの手法とディベート的手法の総合化

ここで考察したデリバレーション的アプローチが、ディベート的それにとって代われるとは即断できない。それぞれメリット、デメリットがある。日本的に言上げしない文化では、あえて対立を前面に出すことの有効性もあるわけで、対象学年などに鑑み、使い分けていくことが望まれよう。

(注釈)

- (1) 水山氏 (2003) は、合意形成が社会認識の不十分なままに図られる合意形成ではなく、社会認識を意思決定の双方の質的向上を、「何に合意できて、何に合意できないかを明らかにしていく作業」を通して図ろうとしていることや吉村氏 (2003) が「自己内省」などに言及していることから、両者がディベートそのものに固執しているわけではないことも忘れてはならない
- (2) この言葉は、最近のものではない。もともとアリストテレス (注; 「審議・熟慮できる人は、実践的な知恵を有している」(『ニコマス倫理学』6巻5章) など) においても考慮されていたといつてよい。なお、デリバレーションの考え方は、最近では J・ハーバースマヤ J・ロールズの民主主義理論への貢献と大きく関わっているといえる (Jurgen Habermas, 1989, 1996, J. Rawls, 1971, 1993)。
- (3) このデリバレーション概念は、K・マンハイムの「創造的寛容」(creative tolerance), すなわち単なる妥協とは異なる寛容とも親和性がある。彼は、自身の見解と意思を他者に押し付けずに、意見の相違を許容すること、場合によっては自身のパーソナリティそのものを変動にさらす勇気を持つこと、自身の信じる立場に立つことを「中立性」の名において回避せず、本質的な認識を通じて常に不安定な状況にある反対者との間に共通の目的、真の協力を確立することなどを提起している。また、相互の意見の食い違い、利害の対立の解決のために忍耐強く話し合いを積み重ね、現

実と理想の間で、最大限理想に近づけることが可能な解決策を探り、妥協点を求めていく「可能性としての技術もしくは芸術」にも近い概念といえよう。

- (4) NIFは、市民団体や教育団体やコミュニティ団体などからなる独立ネットワークを指示する場合もある。
- (5) 同じような観点から、パーカーの研究があげられる (cf. Parker 1996, 2003)。
- (6) 授業時間数に関しては、1週間モデル、2週間モデル、3週間モデルが提示されている (NIFI, sec. 1)。
- (7) この評価票は、他の参加者、モデレーターに対するもの以外に自己自身への評価も含まれている。

(引用・参考文献)

- 磯崎育男 (2004) 「合意形成学習考」『千葉大学教育学部研究紀要』53巻
- 上田道明 (1996) 「デモクラシーにおける『参加』と『熟慮』—20世紀末の政治への一考察」日本政治学会編『年報政治学1996』岩波書店
- 大矢吉之 (2003) 「熟議民主主義論の展開とその政策理念—市民参加・熟議政治・合意形成—」足立幸男・森脇俊雅編著『公共政策学』ミネルヴァ書房
- 川野哲也 (2004) 「民主主義理念と市民性教育の実践—W・C・パーカーの議論を中心に—」『公民教育研究』12
- 金田耕一 (2000) 『現代福祉国家と自由』新評論
- 千葉 眞 (1995) 『ラディカル・デモクラシーの地平—自由・差異・共通善』新評論
- 松本浩毅 (1995) 「公正な判断力の育成を図る公民教育—論争問題を事例として—」『公民教育』3
- 水山光春 (2003) 「『合意形成』の視点を取り入れた社会科意思決定学習」『社会科研究』58
- 吉村功太郎 (2003) 「社会的合意形成能力の育成を目指す社会科授業」『社会科研究』59
- Anderson, Charles W. (1990) *Pragmatic Liberalism*. Chicago: University of Chicago Press.
- Busenberg, George J. (1999) "Collaborative and Adversarial Analysis in Environmental Policy," *Policy Sciences* 32.
- Doble, John and Iara Peng with Tina Frank and Dizerly Salim (1999) *The Enduring Effects of National Issues Forums (NIF) on High School Students*. Englewood Cliffs, NJ: Doble Research Associates, Inc.
- Dryzek, John S. (1990) *Discursive Democracy: Politics, Policy, and Political Science*. New York: Cambridge University Press.
- …… (2000) *Deliberative Democracy and Beyond: Liberals, Critics, and Contestations*. New York: Oxford University Press.
- Elster, John (ed.) (1998) *Deliberative Democracy*. Cambridge, U.K.: Cambridge University Press.
- Fishkin, James (1991) *Democracy and Deliberation*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Goodin, Robert (2000) *Democratic Deliberation Within*.

- Philosophy and Public Affairs* 29.
- Habermath, Jurgen (1989) *The Structural Transformation of Public Sphere: An Inquiry into a Category of Bourgeois Society*, Cambridge, MA: MIT Press.
- …… (1996) *Justice, Nature and the Geography of Difference*, Oxford: Blackwell.
- Kettering Foundation (1991) Twelve Major Findings from Studies of Public Deliberation (unpublished report)
- Mannheim, Karl (1943) *Diagnosis of Our Time*, Routledge & Kegan Paul.
- …… (1951) *Freedom, Power and Democratic Planning*, Routledge & Kegan Paul.
- Mathews, David (1999) *Politics for People: Finding a Responsible Public Voice*, Urbana and Chicago: University of Illinois Press.
- NIFI (2001) *National Issues Forums in the Classroom: A High School Program on Deliberative Democracy*, NIFI.
- Niemi, Richard G. and Julia Smith (2001) Enrollments in High School Government: Are We Short-Changing Both Citizenship and Political Science Teaching? *PS: Political Science & Politics*: 34; 2.
- O'Connell (1997) Teaching the Art of Public Deliberation: National Issues Forums on Campus, in Grant Reeher and Joseph Cammarano (eds.) *Education for Citizenship: Ideas and Innovations in Political Learning*, New York: Rowman & Littlefield Publishers.
- Parker, W.C. (1996) Curriculum for Democracy, in R. Soder (ed.), *Democracy, Education, and the Schools*, San Francisco: Jossey-Bass.
- …… (2003) *Teaching Democracy: Unity and Diversity in Public Life*, New York: Teachers College Press.
- Rawls, John (1971) *A Theory of Justice*, Cambridge, MA: Harvard University Press.
- …… (1993) *Political Liberalism*, New York: Columbia University Press.